

会報ひまわり

創刊第10号

目次

■ 1 : ご挨拶～近況報告～

■ 2 : 代表コラム～療育と保護者、そして療育（医療モデルから生活モデル）の見地から～

ご挨拶～お詫びと近況報告～

当ホームページ、ならびに、会報ひまわりをご覧いただきありがとうございます。

まずは、会報を中々更新できませんでしたこと、お詫び申し上げます。

当会は、以前から代表含め3名の指導員によって、お子様を常に45名担当しております、また、当会代表の尾串個人としては、当会の事業のほか、NPO法人すくすくの顧問としての活動と並行して、去年から今年にかけて、滝乃川学園での講演会を行い、今年度から同施設で児童入所施設でのケース会議座長に就任する運びとなりました。

そのことから、思うように会報の新刊発行だけでなく、療育事業の新規受付停止の継続など、ご迷惑をおかけしておりますが、会報だけでなく、当会代表尾串のブログ「活動の日々」でも新しい情報をお伝えしておりますので、そちらのほうもご覧いただけたら幸いです。

なお、今回の会報は、本内容の他、今後のひまわりの会の活動について記載しておりますので、お時間がございましたら、引き続きご覧くださいませよう、お願い申し上げます。

NPO法人ひまわりの会事務局

代表コラム～療育と保護者、そして療育（医療モデルから生活モデル）の見地から～

「子どもの成長・達成は周囲が作っていく」ものです。

子どもは勝手に成長していくのでしょうか。決してそうではありません。それは、定型であっても診断があっても同様のことが言えます。ただ、成長の物差しが個人によって異なるだけなのです。

そういった物差しを周囲が理解し、そのうえで保護者の方が、「子どもの成長・達成は周囲が作っていく」ということを理解していくことが、子どもを成長させていくことになるのです。

そうでなければ、より良い教育・療育（療育は教育そのものです）なども求める必要もないでしょう？

そこからもわかるように、「子どもの成長・達成は周囲が作っていく」という考えが大切なのです。

では、療育は、セラピストをはじめとする療育従事者が行えば良いのでしょうか？

いわゆる「療育」をセラピストが行うことで、確かに一定水準の成長は認められるでしょう。しかし、その後はどうするのでしょうか？

幼児期は、各機能領域を成長させていき、いわゆる「学習」などの認知機能の発達からコミュニケーションや遊びなどのQOLの向上、身辺自立などのADLの確率を目的としましょう。

しかし、学齢期、思春期と年齢的な成長が進むにつれて、機能を向上させるだけでなく、保護者、つまり家庭と子どもとの日々の関わりの中に課題ができ、その日その日の対応を保護者が、家庭が考え、必要に応じて見直していく必要があるのです。そして、そういった子どもと過ごす時間の中ではセラピストをはじめとする療育従事者の介入には当然限界が生じてきます。

問題行動の改善のための介入は、セラピストは専門の1つとしているでしょう（そうでなければセラピスト＝治療家とは言えません）。

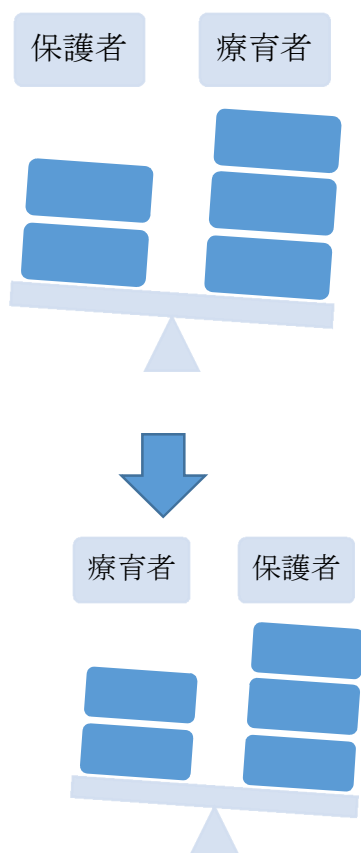
しかし、特に幼児期から適切な療育を受け、ある一定水準まで子どもが成長していくと、日常の中で生じる細かい問題は、あくまでも「相談（ペアレントトレーニング）」の比率が挙がっていくのです。

その際に、誰が介入するのでしょうか？それは保護者です。

当然セラピストも介入します。しかし、介入の範囲は子どもが大きくなるにつれて保護者の比率が多くなるのです。そして、これが長期療育の定義「医療モデルから生活モデル」でもあります。

そこで、「子どもの成長・達成は作っていける」という姿勢を「保護者の方が」持つことが一番大切です。

その姿勢であることが基盤となり、その上にペアレントトレーニングやらセラピストによる子どもへの介入であることが理想と言えます。



* この表は、年齢とともに変化していく保護者・療育者関の基本的な図であり、また、子どもと関わる物理的な時間ではなく、質的な部分を含めたトータルの値です。

上記の比率は概論であり、療育開始時期や子どものプロフィール、家庭環境によっても異なっていくでしょう。

しかしながら、「子どもの成長・達成は作っていける」という姿勢を「保護者の方が」持ち、そのうえで支援できる人間が周囲にいることが理想であり、それが、保護者が結局ストレッサーを最小限で生活できることになると考えられます。

毎日セラピストがいるわけではありません。保護者が「子どもの成長・達成は作っていける」という姿勢を持つ、すなわち元気に生活していくということが、子どもが元気に生活できることにつながっていきます。

そして、そういったサポートを行っていけること、これを追及していく会であり、個人であり続けたいと私は考えるのです。

NPO法人ひまわりの会 代表：尾串光康